

「ラオス国立人形劇場と文楽スタイルにおける八百万の神の世界」 (表現の向上と発展を目的としたリサーチと共同創作)

- ラオスの伝統人形劇イポックや祭り事ピーターコン、プーニューニャーニュー等のマスクや土着物語についてのリサーチ。また、ラオスの文化や生活に根付く、精霊信仰のリサーチ。
- ラオスと日本の共通点である「八百万の神の世界」をパペットシアターで表現。ラオス国立人形劇場にて、共同創作し発表上演。創作過程でお互いの創作スキルの交換とコミュニケーション方法の模索を行う。
- 一般のラオス人、子供たちに対して、ワークショップ「コミュニケーションツールとしてのパペット」開催し、文楽スタイルのパペット創作や操作を教える。

サイニャブリ県パークライの「ピーターコン フェスティバル」のリサーチ活動

2018年3月2日～3日



ピーターコンとは・・・ピーは精霊のことである。コンは、仮面。つまり、仮面を被り精霊に扮して村をパレードするお祭り。タイの北部でも、同じお祭があるが、マスクの形態はだいぶ違うと言う。ラオスでは、天狗のように鼻が高く竹の籠で作られている。仮面とは言え、かなり重量があるため、頭に乘せて首の下で固定する。試しに頭に乘せてみたものの、女性が一人で支えるのは、不可能な重さである。
ピーターコンフェスティバルはサイニャブリ県だけで開催されているお祭り。しかし、サイニャブリ県で一番有名なお祭りは、エレファント祭り。外国人がこのピーターコンフェスティバルを目にするのは、日程も特に公表されていないのもあり、稀。

このラオスの「精霊」が森に住んでいるという信仰は、ラオス人の生活や文化、集団形成に影響を与えていると思う。日本の「もったいない」という気持ちは、全ての物に命があるという信仰があったからだと考えられるように、精霊（ピー）信仰が、ラオス人の生活や考えにどのように影響しているのか、この先、いろいろな地域や村で考えていきたいことの1つである。
また、アメリカの北部にあるパペットカンパニーの作る巨大な仮面にテイストが似ていることも非常に興味深い。森というのが1つの共通点である。しかし、この大胆な作りと大きさは魅力的である。ラオスにある手付かずの豊かな自然の持つ深い色合いに映える仮面の配色にも脱帽です。



ラオス国立人形劇場の魅力を考える

2018年3月5日～26日

ラオス国立人形劇場とは・・・政府やお寺の主催イベントで、田舎の貧しい村に行き、子供達や村の人々のためにパペットシアターを上演しています。また、ビエンチャンキャピタルでは、インターナショナルスクール等の子供達が、彼らのパフォーマンスを観にやって来ます。イベントや巡業に向けて、自分たちの持つレパートリー作品からニーズにあったパフォーマンスを選びます。そして、全体を構成し直し、リハーサルやパペットの修正をします。



ラオス国立人形劇場のパペットの種類・・・現在5種類あるそうです。イボックと呼ばれるルアンパバン発祥の伝統的なパペット、仮面、ハンドパペット、影絵（今は影絵は、上演していません）、現代的なパペットの5つ。



↑ラオスの伝統的なパペット「イボック」↑



↑竹やココナッツ等の自然素材でできた現代的なパペット↑



↑ハンドパペット



↑ 仮面 ↑



3月21日が、「国際人形劇の日」ということもあって、ラオスの人形劇を世界の人形遣いに知ってもらいたい機会だと思い、今まで関わりのあったASEAN、アジア、ヨーロッパの人形遣い対象に、国立人形劇場のメンバーへの質問をSNSで募集。「他国からの質問の答え」と「他国への質問」を国立劇場のメンバーの何人かに考えてもらいました。またその全てを録画し、ネット上で共有。日本、韓国、インド、マレーシア、イギリス、タイからの動画を繋ぎ、1本のムービーにし、「国際人形劇場の日」にYouTubeとSNSで発信しました。このビデオを作る過程で、他の国との創作方法の違いや、ラオスの国立人形劇場のメンバーがどのような思いでシアターで働いているのかを理解するきっかけを得ることが出来ました。

- 他国からの質問・・・Q1. ラオスの伝統的なパペットについて
 - A1. ラオス人にとってパペットは、先祖代々から受け継がれているもの。イポックというルアンパバンのパペットが伝統的なパペットです。
 - Q2. 人形遣いになって、あなたの何が変わったか？
 - A2. 今まで見たことなかったこと、知らなかったことに出会えた。
今は、パペットシアターで働いていることを誇りに思っている。
もう使わない物をパペットとして生き返らせることを知って、それを素晴らしいことだと思った。
 - Q3. 東南アジア、アジアのパペットは、今後どのように発展していくと思うか？
 - A3. いろいろな国に、自国のパペットを広めていくことで発展していくと思う。
 - Q4. パペットシアターはどんな役割を持っているか？
 - A4. 子ども、観客とパフォーマーとのコミュニケーションツール。お互いを幸せにするものである。

- 他国への質問・・・Q1. あなたの国のパペットの様式について。
 - A1. 映像により返答。（日本）
 - Q2. 人形遣いになって、どのように人生が変わったか？
 - A2. 儀式や人生について塾考し始めた。（韓国）
 - Q3. パペットをどのような理由で好きなのか？
 - A3. パペットは、みんなの幸せを作り出すから。（タイ）
 - Q4. 人形遣いになって、どのような学びがあったか？
 - A4. 他者と創作することを学んだ。（日本）
 - Q5. パペットシアターはどんな役割を持っているか？
 - A5. 教育とエンターテイメント（インド）

公演ごとに新しい作品を作るというよりは、今あるレパートリー作品の中から作品を選び、上演に向けて構成し直し、皆でリハーサルをして上演します。日本人のリハーサルの多くの現場は、皆が緊張している印象を受けますが、ラオス国立劇場のリハーサルは、皆が生き生きとしています。普段、公務員の事務所内には上下関係があり、皆、その中で仕事をしています。しかし、リハーサルになると皆、同じ立場。いろいろとお互いに提案をし合います。それが少しづつ、彼らのパフォーマンスの質を上げていくのだと思います。シアターの皆は、パフォーマーでもありますが、演出、音楽、台本、音響や照明、美術、衣裳、企画、会計、事務的なこと全て、役割分担をしています。得意分野、自分のスキルを活かせるようになっていきます。

ラオス国立人形劇の歴史

1979年1月、ラオスの首都ビエンチャンに設立されました。その目的は、人々を楽しませ、教育することでした。変化する時代に沿って生まれた様々な物語も、戦争期に政治的道具として使われていました。ラオスには、イポックとして知られるいくつかの違ったスタイルの人形劇のパフォーマンスがあり、数年後には、イポックはラオス国内で非常に有名になります。そして、マネジメントやパフォーマンスのような他の重要な部門が創設され、スタッフが増え、組織はさらに進歩しました。より多くの新しい人形劇の話が紹介され、幅広い層の観客の目に触れるようになりました。2003年、フランス政府はラオス政府情報文化省に人形劇の権利を引き渡しました。国家遺産や文化芸術や公演を促進し、保存するために、国の伝統や文化に対して非常に大きな責任を負うことになります。国家テレビ、ラジオ、野外公演、屋内公演を通じてラオス社会への教育のため、この芸術形式を促進する重要な役割を、今も、果たしています。